

パブリック用手すり 軽量鉄骨下地 固定方法の特徴

※どの施工方法で行うかは下地を行う施工業者様（建築側）と事前打合せが必要です。

■耐火壁でない場合（木下地）

木下地（コーチねじ固定）

軽量鉄骨に厚さ12mmの合板を張り付け、木下地のコーチねじ固定で対応する（手すりを取り付ける面の壁を一面合板12mmとしてください。）

また、前出90mm、前出120mmの I 型手すりなど合板12mm以上で対応できる手すりに限ります。その他手すりは、下記「■耐火壁（木下地にできない場合）」で対応ください。

■耐火壁（木下地にできない場合）

軽量鉄骨下地用取付け金具

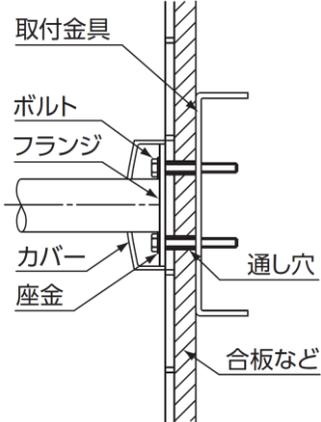
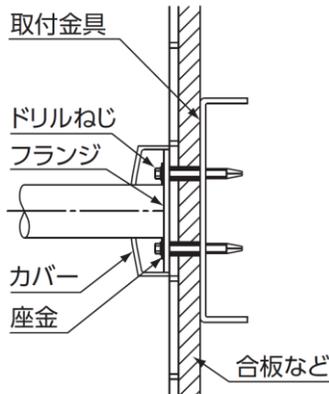
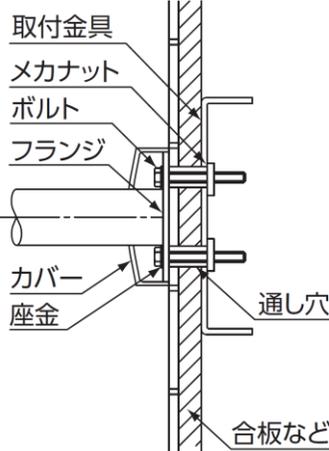
壁仕上げ前に、大まかな手すり取付け位置を決め、壁仕上げ後に正確な取付け位置を決めたい場合の固定方法です。

補強材に軽量鉄骨用取付け金具をドリルねじまたは溶接で固定します。

壁仕上げ後、取付けプレートの寸法の範囲内で手すりの取付け位置が調整できます。

取付けプレート溶接固定

壁仕上げ前に、手すり取付け位置が正確に決まっている場合、補強材に取付けプレートを溶接する方法です。建築図面に正確さを要します。壁仕上げ後に手すりの取付け位置を変更できません。

ボルト固定	ドリルねじ固定	メカナット固定	溶接固定
<p>軽量鉄骨用取付け金具にタップ加工を行い、ボルトやナットで固定します。インパクトドライバーなどの工具を使用しないので、手すりに傷を入れる心配がありません。</p> 	<p>ドリルねじで直接、軽量鉄骨用取付け金具に手すりを取付けます。下穴用ドリルが不要ですが、施工時に手すりに傷を入れないよう注意が必要です。（下穴をあけた方が楽に施工できます。）複雑な手すりの一人作業は困難です。</p> 	<p>取付け金具に穴あけし、メカナットを挿入、壁裏にナットを取付けます。タップ加工ができない場合や、失敗した場合などにも対応できます。</p> 	<p>事前にボルトをプレートにセットし壁を仕上げます。壁仕上げ後は手すりをナットで固定します。手すりに傷を入れる心配もありません。</p> 